PRESS RELEASE

住まいと暮らしの
創造企業グループ
長谷工グループ
HASEKO

２０２４年6月５日

湯川秀樹博士旧宅の整備・改築工事が完了
“下鴨休影荘”として京都大学が継承

～安藤忠雄建築研究所の設計、長谷工グループの細田工務店と、安井杢工務店の施工で
博士が住まわれていた頃に復原・機能付加～

株式会社長谷工コーポレーション(本社：東京都港区、代表取締役社長：池上 一夫) は、湯川秀樹博士(※1)が晩年を過ごし、弟子や各界識者との交流や非核平和運動について思索を深められた京都・下鴨神社近くの旧宅を博士の功績・足跡を後世に伝え、これからのわが国の科学・技術・芸術の発展、人材育成のための施設として有効に活用していきたいという国立大学法人京都大学(総長:湊 長博)の考えに賛同し、企業の社会的責任のもと本旧宅を取得、2021 年 8 月に京都大学へ寄付いたしました。

2023 年 4 月より博士とのゆかりを感じさせる部分を残しつつ、今後求められる機能に応じて新しい要素を付け加えることで魅力を増し、後世に伝えていく整備・改築工事に着手し、今般、工事を完了し、京都大学にお引渡しいたしました。

本整備・改築設計は本寄付活動に賛同頂いた株式会社安藤忠雄建築研究所にてご担当頂き、工事は長谷工グループで木造戸建住宅の建築・リフォーム事業を主力とする株式会社細田工務店(本社：東京都杉並区、代表取締役社長：野村 孝一郎)と株式会社安井杢工務店(本社：京都府向日市、代表取締役社長：安井 洋)(※2)が担当いたしました。尚、本整備・改築設計並びに工事も寄付の一部となります。

今後は、「京都大学下鴨休影荘」 (※建物名称の由来、後述)として、大学への賓客の対応や教職員の教育・研究や会議の場として利用されます。また書籍をはじめ博士にゆかりのある数多くの品々も展示されます。

(※1)1949 年(昭和 24 年)日本初のノーベル(物理学)賞受賞。日本の科学技術の発展に優れた功績のあった学者

(※2)創業元禄元年(1688 年)。堂宮、数寄屋等の純日本建築のみならず、近代建築の設計・施工にも取り組み

【整備・改築工事概要】

所　在　地：京都市左京区
敷 地 面 積：727.40 ㎡(220.03 坪)
延 床 面 積：358.18 ㎡(108.34 坪)　＜改修後＞
構造・規模：木造 2 階建
工 事 内 容：保存部分　　外部：現状維持若しくは補修・補強のうえ存置(街並みを残す)
　　内部：博士が住まわれていた頃に復原保存(耐震改修を含む)
　　増築部分　　現代の工法(木造軸組工法)にて増築
設　　計：株式会社安藤忠雄建築研究所
施　　工：株式会社細田工務店(長谷工グループ)・株式会社安井杢工務店
工　　期：2023 年 4 月～2024 年 3 月

【建物の詳細】

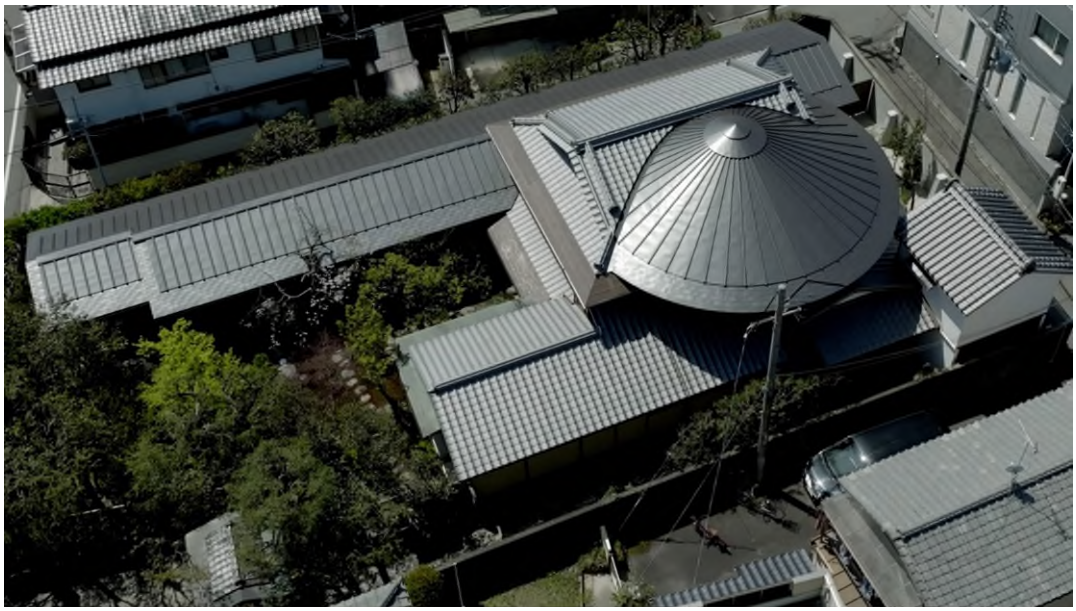
下鴨神社、糺の森にほど近く、閑静な住宅と豊かな自然に囲まれた京都らしさを感じられる立地。湯川博士が晩年、弟子や各界識者と語らった庭や母屋空間を守り、継承しています。その母屋の西側には建物の新たな中心として、糺の森を望む円形のパブリック・ロビーを設けています。象徴性と求心性の意図を表すこの円形平面には、『知の世界』のイメージを込めています。湯川博士の功績を伝えるための展示スペースを設けたラウンジなど新たに必要な機能は、敷地南側の糺の森へと続く静かな街路に沿って、敷地一杯に低く伸びる新棟に配置しています。

【建物名称の由来】

旧宅の玄関には湯川博士の自書からなる「休影」の扁額が掲げられていました。これは『荘子』の一篇から引用したもので、ご親族に次のように解説されたとのことです。

「自分の影から離れようとした者がいた。どんなに早く走っても影はついてくる。（略）とうとう疲れはて、木の陰にへたりこんだ。すると影から解放された。木の陰に入って、動かずにじっと静かにしていれば誰もついてこない。おかげで心身ともに落ち着いた。」

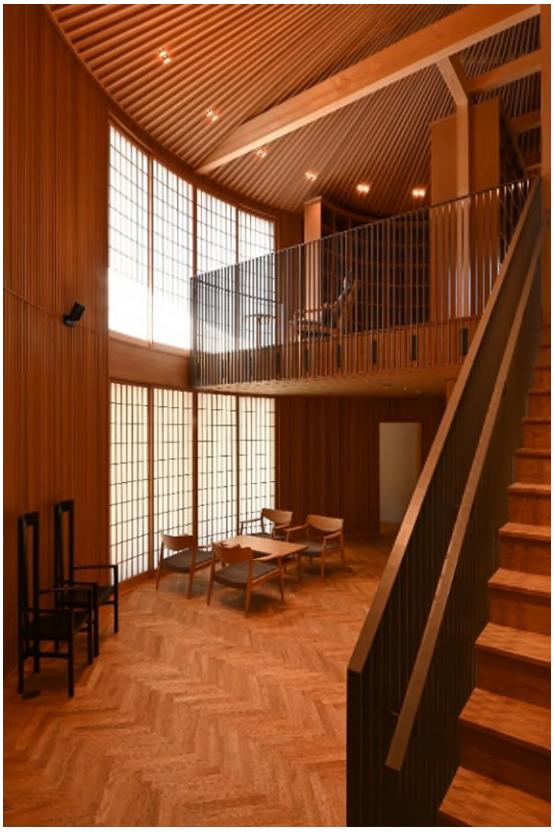
研究に専心し多忙を極めた湯川博士が、ひと時の安らぎを得てご家族との思い出をはぐくまれた地として、湯川博士やご親族の想いを継承しながら、京都大学ならではの趣ある施設として大切に活用されていきます。



<外部(空撮)写真>　[京都大学提供]

（母屋から望む庭）

<内部写真>　[京都大学提供]



（居間・読書室の吹き抜け）

（ラウンジ）

＜記者会見について＞

日　　時：令和６年５月１７日（金）１２:００～１２：４５

場　　所：京都大学国際科学イノベーション棟５階　シンポジウムホール

出 席 者：安藤　忠雄　建築家　安藤忠雄建築研究所 代表取締役

　　湊　　長博　京都大学 総長

　　辻　　範明　株式会社長谷工コーポレーション　取締役会長

【左から 安藤忠雄氏　湊総長　辻会長】